

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育 ・文化 ・スポーツ ・子育て など 	<p>(教育)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校外の人に授業参画してもらう機会を増やす。(学校はしつけをする場ではなく、社会性などを学ぶ場にするため) ●県外から水俣に訪れる修学旅行生との学校交流の機会の創出。 ●水俣の歴史を知る環境プログラムの充実(地元・地元以外) ●アンガーマネジメント(怒りのコントロール)の普及(全住民対象) ●中高年向けの職業訓練の場の確保(中高年向け職業訓練校の設置・企業セミナー) ●人材育成への資金の運用・各分野への研修の支援 ●小中学校の環境(教室内・グラウンド・教材)の質の向上 ●教育はスポーツに偏ることなく、社会・文化を学ぶことは大切 ●大学や専門学校や塾の選択肢がない。 ●社会体育と学童クラブの問題 ●不登校対応(フリースクール等)→自立支援教室の充実化など学校の対応の統一 ●支援学校、養護学校の開拓 ●大学があるとよい。 ●小中学校にエアコンが設置されていない。 ●大手の学習塾がない。 ●水俣高校ではなく、出水・八代・芦北方面にも優秀な人材が流れてしまう。 ●学校教育で自治意識を高める取り組みが不足している。 ●学校教育で障がいを持つ人が分けられている。 ●学校の先生が必要のないことで忙しすぎる。 ●優れた人材が都市部へ流れてしまう。 <p>(文化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●娯楽施設の整備(木育施設、東京おもちゃ美術館の誘致) ●地域の行事に対する子どもたちの関わりが薄くなってきている印象がある ●趣味を活かしたつながりで、近所でたくさん集えたらいい。 <p>(スポーツ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●招待するスポーツ選手の人選(単に出身とかプロであるだけでなく、社会に広い視野のある人を呼んでほしい) ●スポーツを見る環境の整備(パブリックビューイング) ●プロを目指せる選手の育成(オリンピック出場) ●恵まれたスポーツ・遊具・娯楽の施設の活用 ●継続したスポーツ教室等の開催 ●日本一長い運動場の整備不足、トイレや水飲み場の不足 ●高齢者がスポーツや歩くことでポイントが貯まるようになればいい。

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>人づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育 ・文化 ・スポーツ ・子育て など 	<ul style="list-style-type: none"> ●子供がやりたいスポーツを選べない。 ●民間のジムがない。 ●他校と連携して部活動できないか ●スポーツクラブがない。 ●市で運営している施設を十分に活用する仕組みづくり ●プロでの実績がある各種競技者による講習会の開催 ●各種プロスポーツ大会の会場として設備稼働の充実 ●部活動がなくなるなか、クラブチーム及び指導者の確保。 ●基礎的なスポーツ教室が少ない。(水泳・陸上など) <p>(子育て)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●少子化問題 ●子育て、教育への援助(進学支援など) ●母親学級が平日開催が多く、仕事で参加しづらい。 ●乳幼児期の早期療育体制の整備 ●地域で子どもを預けることができればいい。 ●子供の遊ぶ場所が少ない ●病児病後児保育「もくれん」が診断書が必要等で使用しにくい ●学童保育が高額 ●休日や夜間の保育施設がない。 ●子育て中の母親が子連れで息抜きできる場(カフェなど)の充実 ●雨天時等、幼児や児童が屋内で遊べる施設の充実。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●水俣出身の企業家・芸術家・文化人等で活躍している人材の情報収集と水俣の経済・人材育成のタイアップ

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>産業・経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済 ・観光 ・農林水産業 ・空き家対策 など 	<p>(経済)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●外国人来水者対策(語学人材の確保) ●若者のための雇用機会の創出 ●地元で買い物、食事、娯楽を楽しむ。 ●動けるプレイヤーが規模の割に多いと思うので、行政とタッグを組んで産業・経済が回る仕組みづくりを。 ●市民への経済支援 ●商店街の協力 ●シャッター街になりつつある。 ●空き店舗への新店舗誘致支援(若手のチャレンジショップ、シェアオフィス等) ●企業誘致(雇用) ●祭の活性化 ●雇用が少ないと感じている市民が多いが、実際の現場では人手不足 →市民が働きたいと思える職種や働く場が少ないのでは。 ●外国と商売できる仕組みが必要 ●インバウンドの取り込み ●どの業種も人材が不足 ●長時間労働、低賃金 ●雇用のミスマッチ(企業は求人している、求職者は職が無いという。) ●各産業の担い手不足 ●魅力をつくる必要(住みたくなる、また来たくなる、戻りたくなるまちづくり) ●食品の出水方面への買い物が多い。税収が水俣市に入らない。 ●個々に活動し、連携力が足りない。若手のアイデアを活用すべき。 ●多くの市民が市外で買い物する。 ●各種イベント会場としてエコパークを利用 ●大型デパート等、水俣で色々な物が入手できる環境を作る。 ●地元商業施設の改革(若者が流れてこない) <p>(観光)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●介護旅行の誘致(トラベルヘルパーの養成等) ●一般的な「観光」ではない、オリジナリティーのある観光プログラムや取組の創出。 ●温泉地の相互協力 ●湯の児・湯の鶴の建物の老朽化 ●観光資源はあるし、色々イベントもあるが活かされてない ●湯の児・湯の鶴の魅力づくり ●バラ園のプロデュース ●道の駅をもっと素敵に

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>産業・経済</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済 ・観光 ・農林水産業 ・空き家対策 <p>など</p>	<p>●グリーンスポーツ跡地をレジャー施設・牧場・農地として活用</p> <p>(農林水産業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●生産者支援(取り組みのPR) ●漁師市の宣伝不足、終わるのが早い。 ●第1次産業を衰退させてはならない。 ●埋め立てや乱獲で水俣や周辺海域の海産資源は著しく減少し、持続的な漁業はほぼ成り立たなくなっている。 <p>(空き家対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●Uターンしたいが、地元之家がない人が多い。(マッチング機能を地元不動産が連携して取り組んではどうか。) ●空き家問題(見た目以上に潜在的に市民に与えるダメージは大きい。) ●空き家の有効活用(市営住宅化するなど) ●移住促進の取り組み ●空き家を安く賃貸に ●老朽化した空き家の解体の義務化 ●放置されたままの空き家が多い

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>保健・医療・福祉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年金 ・医療 ・介護 ・福祉 ・健康 など 	<p>(医療・介護・福祉・健康)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高齢化が進む中、医療費をどれだけ抑えられるか。(公民館などで運動指導などを行い、自然と運動する環境づくりを行ってはどうか。) ●認知症対策(認知症ケアパス(状態に応じた適切なサービス提供の流れ)導入 等) ●DV(ドメスティック・バイオレンス)問題 ●生活困窮者への支援(生活保護等) ●透析患者が多い。(介護施設の受け入れの問題) ●医療福祉系教育機関の誘致(大学、短大の分校、専門学校) ●現状を知る機会の不足 ●医療特区等を作り、外部から人を呼び込むなどし、医療や福祉の充実したまちにする。 ●元気な高齢者が働ける仕組みづくり ●介護スタッフの不足 ●市町村での加算の不足(介護保険事業) ●医療費の補助(一般) ●産科医・皮膚科医・眼科が少ない。 ●医療センターの外来での待ち時間が長い。 ●職場検診を年度初めに予約したら2月まで待たされた。 ●市としてのリカレント教育の場をつくる。(多様な教育機会の創出) ●障がい者が働ける仕組みがあればいい。 ●高齢者が働ける仕組みがあればいい。 ●医療センターの予約システムがきちんと活かされていない。 ●医療センターの駐車場不足 ●高齢者・障がい者が先生として活動できないか。 ●介護が必要な状態とならないよう、市役所内で横のつながりが必要 ●慢性的な現場の人手不足 ●子供の入院後の支払方法が面倒 ●健康寿命の延伸 ●障がい児保育の未確立 ●専門員の不足(障がい関係、相談員など児童福祉全般) ●人口に対して病院が多い。 ●御用聞きシステムで見守りができないか。 ●高齢者の割合が多いが、介護老人保健施設の空きが少ない。 ●社会福祉協議会・地域包括支援センターへの負担大きい。 ●医療・福祉・健康・介護に関係するサービスの整理ができていない。 ●高齢者が運転免許証を返還した後の交通手段の整備が不十分 ●ヘルパーや訪問看護職員の確保 ●医療機関の充実

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>環境 (快適な暮らし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境 ・水俣病 ・ごみ ・都市計画 ・下水道 など 	<p>(環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●環境と経済が連携した画期的な取り組みの創出。(飲食業組合と連携して使い捨てプラをなくす取り組みをする、企業と連携したプロジェクトの創出等。) ●外国人にも暮らしやすい生活環境の確保 ●気候変動 ●海のPR(正しい情報の発信) ●世界最先端のまちを目指し、それで有名になること。 ●地場商業施設はレジ袋削減を推進しているが、他の大型店では普通にレジ袋を配っている。 ●地域環境の保全活動を今後どうするか。 ●設備の整った動物病院が必要 ●ペットにも健康保険をできないか。 ●賃貸にペット可がない。 ●地域行政への住民の参加が少ない。気軽に参加できる仕組みがない。 ●「環境モデル都市」の内実が見えない。 ●環境ISOの取り組みが形骸化している。 ●レジ袋の有料化が徹底されておらず、アリバイ的に感じる。 <p>(水俣病)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●つかみきれしていない水俣病の教訓をつかむこと。 ●世界中の人が水俣病を学べる機会を積極的につくれたらいい。 ●水俣病を経験した水俣だからこそ、国内外に模範となるダイナミックな動き ●もやい直しの継続 ●水俣病だけではない水俣のPR ●水俣病資料館の展示(そこからどうやって今に至ったか) <p>(ごみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ごみの分別の影響で住みにくい。 ●独身者や共働きの家庭で分別収集の時間が合わない。 ●週末などにでも行ける、ごみ分別ステーション ●ごみ分別の仕組みは近隣とのコミュニケーションや生活意識を高めるにはとても有効なので、もっと進化させてほしい。 ●ごみ分別は良いことだが、利便性が悪い。 ●インセンティブがもっと必要 ●利便性が悪いので不法投棄がある。 ●資源ごみの収集間隔が長い(分別は環境のために必要だと考えるが収集方法の改善が必要)。

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>環境 (快適な暮らし)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境 ・水俣病 ・ごみ ・都市計画 ・下水道 など 	<ul style="list-style-type: none"> ●ごみ出しがもっと便利に(いつでも出せるなど) ●ごみ分別の冊子がわかりづらい。 ●リサイクルの流れがわかりづらい。 ●分別を続けていくのなら市民に負担のないように。 ●ごみ処理機の補助がない。 ●ごみ分別について、高齢者・転入者が苦勞している。 <p>(下水道)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●下水道の整備 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●3号線の交通渋滞

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>生活基盤 (安全・安心)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水道 ・道路、河川 ・住宅 ・防災 ・新庁舎建設など 	<p>(道路)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●川沿いの歩道整備が後回し ●道路の安全のための補修 <p>(住宅)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ユニバーサルデザインの配慮 ●単身～2人くらいの世帯が集まって助け合いながら暮らせる住施設があればよい。 ●賃金が安いのに不動産が高い。 ●バリアフリーの公営住宅が少ない。 <p>(防災)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●災害が起きても対応できる体制整備(山間部のインターネット環境整備) ●宝川内の教訓を生かすこと。 ●水、食料、エネルギーの確保 ●災害時でも衣食住に困らない仕組みづくり ●備蓄ではなく、取得ルートを確立すること。 ●避難所の環境の改善(楽しい、行きたくなる避難所) ●避難勧告・避難所開設等が続くと「またか」「大丈夫だろう」となりがち。 ●一人暮らしの高齢者が安心して避難できる仕組み ●防災行政無線がほとんど聞こえない。 ●早めの情報提供 ●避難経路やハザードマップの認識 ●建物にヒビの入っているような施設が避難所に指定されている。 ●防災行政無線の受信機の不具合が多発 ●防災も良いが、ほどほどにしないと行政の責任だけでなく本人の選択もあると思う。 ●行政は減災に努めたらよい。 ●ハザードマップの住民への徹底周知と再検証 ●警報や避難情報などを防災無線だけでなく、SNS(ツイッター等)でも情報発信してほしい。 ●防災上危険な場所の改善 ●災害が起きた後の医療機関・福祉施設のフォロー体制は十分か。 ●危険区域、水俣川氾濫による被害低減措置 <p>(新庁舎建設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●中高年よりも、先を見越した若い世代のための新庁舎建設。 ●新庁舎は安くてリサイクル性の高いものを。 ●新庁舎建設に併せて、施設の集約ができないか。

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>生活基盤 (安全・安心)</p> <ul style="list-style-type: none">・水道・道路、河川・住宅・防災・新庁舎建設 など	<p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none">●行政サービスだけでなく生活に必要なサービスも併せて地理的集約を行う。●家を建てたいと思っている家族がいるが、適した土地がない一方、休耕地などは多く売りに出されている。●土地代が高くて新築をあきらめてしまう。

本市の現状(統計基礎資料、市民意識調査結果等)から思い浮かぶ課題(問題点)

分野	課題(問題点)
<p>行政経営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財政 ・組織 ・行財政改革 ・事務 など 	<ul style="list-style-type: none"> ●限られた財源の中、事業の選択と集中はもつともだが、投資の観点から、人材を育てることを大切にすべきでは。 ●視野が広い、ユニークな市職員を増やす(管理職を含めた研修の機会の確保。) ●人工知能(AI)の活用 ●総合計画(各計画)の見える化、実行力 ●市役所の外に仲間をたくさん作ること。(広い視野) ●水俣応援団を増やす。(宣伝のお礼付き) ●金稼ぎ、財源確保の事業部門の設置 ●都市部と周辺部におけるコミュニティの作り直し。(自治会制度の見直し) ●行政スタッフの信頼と魅力ある判断 ●新しいことに恐れずにチャレンジする行政マン、それをサポートする組織 ●市民生活に根本的に必要な財政 ●他の行政と比べ税金が高い。 ●一部の人間だけではなく、広く聞き取りを行って事業を選択 ●市民と行政の感覚のズレ ●補助制度等で、相手をよく見極めてから補助すべき相手に補助するような体制 ●民間にアウトソーシング可能な業務の整理と委託 ●専門性が高い、特殊性が高い、人事異動が適さない業務の整理と人事体系の整理 ●無駄なハード面の建設が多い ●アウトソーシングの活用 ●市民・企業からソーシャルビジネス等のプレゼンを受け地域で産業を起こしてはどうか。 ●ワークライフバランスの率先した取り組みに期待 ●人口減少していく中で、施設の統廃合が必要 ●既存施設の売却やネーミングライツ等 ●思い切った決断を下すこと ●集中すべき箇所の選択を間違えたら意味がないので見極めが大切 ●市民の望みや要望を叶えること ●できない理由よりできる方法を探す ●市職員のボランティアの参加が少ない。 ●やる気のある市職員の力が発揮されていない。 ●国や県の動きを素早くキャッチする人材が少ない。 ●本気で水俣市の将来を考える特別職を多く登用してもいいのでは(地域おこし協力隊など) ●市のひっ迫した状況を市民が知らない、関心が薄い。 ●財源の優先度及び選定理由について、市民に知れ渡るシステム